

廃棄学校制服の有効利用へ

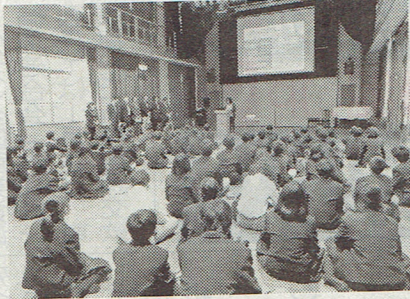
繊維リサイクル技術研究会

中学生から多彩なアイデア募る

2019
1/28

アパレル関連企業や故繊維業者、学識者などで構成する(社)日本繊維機械学会・繊維リサイクル技術研究会(委員長・木村照夫京都市芸繊維大学名誉教授)は、廃棄学校制服の有効活用による衣類ごみ減量化に取り組んでいる。2018年11月28日には、京都市立大原野中学で環境学習

中学校で環境学習とワークショップを実施



授業とワークショップを行い、リサイクル品のアイデアを募った。同研究では、京都市

梅田経済新聞

ごみ減量推進会議の「市民からの提案によるごみ減量モデル事業助成金」を受け、環境負荷軽減と環境教育、雇用創出につながるモデル事業の構築・検証を進めてきた。17年度は、同市立京都御池中学校から不要となった学生服を回収し、反毛綿や不織布に加工。生徒のアイデアを生かし、ペンケースと防災ずきんを作成した。今年度はさらに協力校を増やし、将来的には全国への水平展開を目指している。

今回の大原野中学では、1年生2クラスの約70人を対象に環境学

統合型産業廃棄物業務パッケージソフトウェア
SMS 産廃ソフト
 クリックカチッ! 検索
 詳しくはネットで 産廃イチロー
 導入済ユーザー件数2,328社 (2018年3月現在)
 株式会社エスエムエス お問合せ: 073-435-4111
 ホームページ: <http://www.sanpai.com/>

習授業を実施。「『環境問題』と『リサイクル』について考える」をテ

ーマに、同研究会のメンバーが地球温暖化などの環境問題や市内のごみ排出量、さまざまなりサイクルの方法を講義した。

授業の後半には、制服を粉碎した繊維くずを加工した樹脂シートと紙を配付。12グループに分かれて、「この材料をどう活用できるか」を討議したところ、スリッパや財布、うちわ、水筒カバーなど、多彩なアイデアが集まった。今後、京都女子大学の学生の協力を得てデザインを具体化し、福祉作業所で製品化する予定だ。